

## 教科・領域等〔 総合的な学習の時間 〕

## 2 (2) 横断的・総合的な学習を行う

## 👉こんな実践

地域の中で見いだした課題について探究する総合的な学習の時間と、よりよい地域の未来を全校でつくるために立ち上げた「地域貢献型生徒会」を結びつけ、思考力・判断力・表現力を総合的に働かせて活動する横断的・総合的な学習の仕組みを作った事例。

実践学校 D中学校

実践学年 全校

実践時期 2月～5月

単元・題材名「地域PRキャラクターをつくろう」

## (1) 総合的な学習の時間と生徒会活動を結びつける

- D中学校の総合的な学習の時間は、地域活性化をテーマに空き家活用や創作料理開発など、自ら課題を見つけて探究するアントレプレナー学習に取り組んでいます。



その一つに地域PRを目的に地元キャラクターを開発するグループがあります。右のイラストは、グループのある生徒が考案したキャラクターです。地元を通る国道「善知鳥峠」にまつわる民話を小学校時代に学習したことが、この生徒の中にずっと生き続けて誕生したものです。このキャラクターが地域の方々から可愛いと評判になったことがきっかけとなり、地域PRに活用したいという願いがグループの中に生まれました。

- そこで立ち上がったのが、地域貢献を掲げる生徒会でした。地元のデザイナーに依頼して作ってもらった数パターンのデザイン案を生徒会が集会で披露し、全校投票などを通して地域PRキャラクター「うとう」を誕生させました。生徒たちのやる気に寄り添う形で著作権登録やデザイナー、商品開発業者などとの交渉を教師も献身的に支援しました。生徒会が関わったことで、このキャラクターは全校生徒にとってとても身近なものになり、他の課題について活動しているグループにも「うとう」が活用されるようになっていきました。
- 一人の生徒が地域を思って表現したキャラクターが、生徒会が関わることで、地域貢献のシンボルとして生徒一人一人の中に共有されました。



## ここがポイント

教師が主導して進める活動では、どうしても受動的な受け止めをする生徒が出てきてしまいます。生徒が生徒に向けて「PRキャラクターをみんなで作ろう」と呼びかけたからこそ、生徒一人一人が自分たちのこととして受け止め、その後の活動にキャラクターを積極的に活用していく姿が生まれたのです。

## (2) 地域の行事に目を向ける

○ 「うとう」をグッズにして売ることによって地域貢献につなげたいという願いが、キャラクター開発グループに生まれました。そこで教師は、生徒の思いに寄り添いながら業者との橋渡しを支援し、クリアファイル・キーホルダー・ハンドタオルなどを商品化しました。さらに、このグループの願いを教師が生徒会に投げかけました。地域貢献を大切に考えている生徒会はその願いを大切に受け止め、自分たちにできることはないかと考え始めました。生徒会は、地域で開催されるイベント（小野宿市）に中学生が参画して販売活動をさせてもらうことはできないかと考え、「小野宿市実行委員会に自分たちでお願いに行きたい」と申し出ました。地域貢献への思いの深まりを捉えた教師は生徒の願いを実行委員会へ伝え、会議への参加を実現させました。中学生の考案したキャラクターで地域をPRしたいという願いが生徒の口から直接語られると、実行委員の方々はとても喜んで受け入れてくれました。地域を動かす活動の歯車の一つになれたかのような達成感や自信に満ちた表情を見ることができました。その後数回にわたる実行委員会にも意欲的に参加し、他のグループが考案した「うとう」の焼印入りおやきの試作品などを自ら持参して委員の方に振る舞うなど、主体的な姿が生まれました。



○ また小野宿市実行委員会に参加する中で、長く空き家になっていた「油屋」（初期中山道にある重要文化財）がメイン会場として使用されることがわかり、維持管理するために保存会を立ち上げ、近く大掛かりな清掃作業をすることも分かりました。その話を一緒に聞いていた生徒会は、中学生も清掃活動に協力すべきだと考え、参加させてもらうお願いを申し出ました。学校に戻って協力を呼びかけると、多くの生徒が集まり、保存会の方と共に行う清掃活動が実現しました。



### ここがポイント

生徒が地域と関わりをもつことで、課題解決の糸口を見つけたり、活動の広がりに出会ったりすることができます。同時に、教師ではない立場の大人と関わる経験が、生徒の学びを主体的なものへと高めていくことができます。

### まとめ

学校の実態や地域性に合わせて、総合的な学習の時間と地域貢献を掲げる生徒会活動とのつながりを充実させたことが、生徒の探究的な学びの姿を生み出しました。このように各教科等と総合的な学習の時間を横断的に関連付けながら、双方向に学びを広げたり深めたりしていくことが大切です。